

そんなとき、いとこが遊びに来ました。いとこは●●の選手です。全国大会でも優勝したこともあります。今年●●大学を卒業したのですが、就職できずに、アルバイトをしながら競技を続けています。

会うのは久しぶりだったのでいろいろと話をしました。「スポーツができるのが当たり前って思ってたけど、社会に出てみると、全然当たり前じゃないんだよね。だから今のうち、いっぱい体を動かしておくといいよ」と、諭すようにわたしに言いました。

いとこのやっている競技はマイナーということもあり、女子バレーや駅伝のような、大企業が応援するスポーツとは環境が違います。練習場所を確保するのさえ大変で、自分で市民体育館へ予約の抽選会にも出かけます。

「学校を卒業してから、競技を続けるのがこんなに変だったとは思わなかった」

そう言いました。

だからわたしに「今のうち、いっぱい体を

動かしておくといいよ」と言ったのでしよう。
 「どうしてそんな思いをしてまで、競技を続
 けているの？」
 わたしは思いきって質問してみました。
 「今しかできないことだからさ。それに●●
 が好きなんだよ。だから続けているんだ」
 「●●は●●をやっているんだよね。ずっと
 続けるの？」
 「ううん、やめようと思う。成績も落ちてい
 るし、いい高校（大学）に行きたいから」
 「そうか。でも、勉強はいつでもできるけど、
 スポーツをなんの心配もなくできるのは、学
 生時代だけだから、続けてほしいな」
 「●●ちゃんと違って、素質ないしね。県大
 会に出られればそれだけで満足っていうレベ
 ルなんだ。練習だけは厳しいけど：：」
 「でも、大人になってから分かるよ。あのと
 きスポーツをやっていてよかったて。やめた
 らきつと後悔することになるよ」
 そしてこうも続けました。

「勉強なんかいつでもできる。おまえは頭が
 いいから、遅れなんかすぐに取り返すことが
 できると思うけど：：」
 「●●大学に行ってたんだよね？ スポーツ
 推薦とかじゃなく、よく入れたね」
 「だから勉強は簡単だったこと。一年浪人し
 たけど、勉強の遅れなんて、その程度の時間
 をかければ取り戻せるんだ。でも、スポーツ
 は一度やめたらもう終わり。決して元のレベ
 ルで競技をすることはできない、そう思って
 いるんだ」
 それからしばらく、いとこと話をしました。
 そしていところが帰ったあと、自分に問いただ
 けではないのか？ 勉強はその口実に過ぎな
 いのではないのか？ いとこの言っているよ
 うに、社会に出て、今のようにな恵まれた環境
 でスポーツができるのだろうか：：。
 それから、部活を続けるべきかやめるべき
 か考えました。やめようと思う気持ちが強く

なったり、続けたいという思いへと傾いたり
 したこともありまます。昨日と今日とでは、全
 然違う結論が出てしまうのが当たり前、それ
 ほど気持ち揺れました。
 〃そして最後に出した結論は、”部活を続け
 る”でした。部活を続けることで、勉強は多
 少遅れるかもしれませんが、最後の大会が終わ
 ってからしつかりと勉強すれば、挽回でき
 と考えました。そして、スポーツに思いつき
 り取り組めるのは今しかないとも考えました
 何よりも、今やめたら、一生後悔するかも
 れない、そういう気持ちが大きかったです。
 部活を続けようかやめようかと悩んだ期間
 練習に身が入りませんでした。その分、チー
 ムメイトより、後れを取ってしまったかもしれ
 ませんが。でも、本当に●●がしたいから、
 部活を続けると決めたのです。遅れはすぐに
 取り戻せるはずですよ。
 〃そして何より、将来、後悔しないためにも
 一生懸命がんばろう、そう決心したのです。